国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和８年 10 月 20 日
道路局企画課
国土技術政策総合研究所

令和８年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について

～10 月 28 日（水）より実証実験を開始します！～

物流危機への対応やカーボンニュートラルの実現を図るため、道路空間に物流専用スペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段により荷物を運搬する新たな物流システム「自動物流道路」の構築を推進しています。

今般、令和８年９月８日に採択を行いました、「令和８年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」について実験を開始します。

■国土技術政策総合研究所（つくば市）において実施する実験のスケジュールについて（代表社を記載）

・2026 年 10 月 28 日（水）～11 月２日（月）、11 月 10 日（火）　大成建設株式会社　※１

■成田国際空港において実施する実験のスケジュールについて（代表社を記載）

・2026 年 11 月９日（月）～11 月 18 日（水）　清水建設株式会社　※２
・2026 年 11 月 19 日（木）～11 月 25 日（水）　千葉県　※３
・2026 年 12 月７日（月）～12 月 18 日（金）　鹿島建設株式会社　※４

■自社施設において実施する実験のスケジュールについて（代表社を記載）

・2026 年 11 月４日（水）～11 月６日（金）、11 月 24 日（火）～11 月 26 日（木）　清水建設株式会社（温故創新の森 NOVARE）
・2026 年 11 月 24 日（火）～12 月４日（金）　鹿島建設株式会社（三菱電機尾張旭工場）

※１　大成建設株式会社、株式会社ティアフォー、大成ロテック株式会社
※２　清水建設株式会社、株式会社 IHI、野村不動産株式会社
※３　千葉県、成田国際空港株式会社、株式会社大林組、Cuebus 株式会社、株式会社 NTT データ
※４　鹿島建設株式会社、三菱電機株式会社、西濃運輸株式会社、ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

■実証実験の取材について

〇本実証実験は、報道関係者のみ取材可能です。

〇実証実験の各社視察可能日は以下のとおりです。

・大成建設株式会社：10 月 30 日（金）AM　（国土技術政策総合研究所）
・清水建設株式会社：11 月 19 日（木）AM　（成田国際空港）
・千　　葉　　県：11 月 24 日（火）AM　（成田国際空港）
・鹿島建設株式会社：12 月 17 日（木）AM　（成田国際空港）

〇実証実験の取材をご希望の方は、ご希望される実験の開始日の一週間前までに、下記問い合わせ先までご連絡ください。

※取材受け入れ可能な時間に限りがあるため、ご希望に添えない場合がございます。
ご了承ください。

※メールでの取材申込の場合は、以下のとおりご連絡ください。

件　名：【取材希望】自動物流道路実証実験
本　文：氏名（ふりがな）、所属、取材内容、連絡先（電話番号、メールアドレス）
送付先：hqt-keicho1★gxb.mlit.go.jp（★を@に置き換えて送付願います）
（取得した個人情報は適切に管理し、必要な用途以外に利用しません。）

■実証実験計画概要について

https://www.mlit.go.jp/road/content/002026547.pdf

（参考）

自動物流道路（オートフロー・ロード）　国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/autoflow_road/

＜問合せ先＞

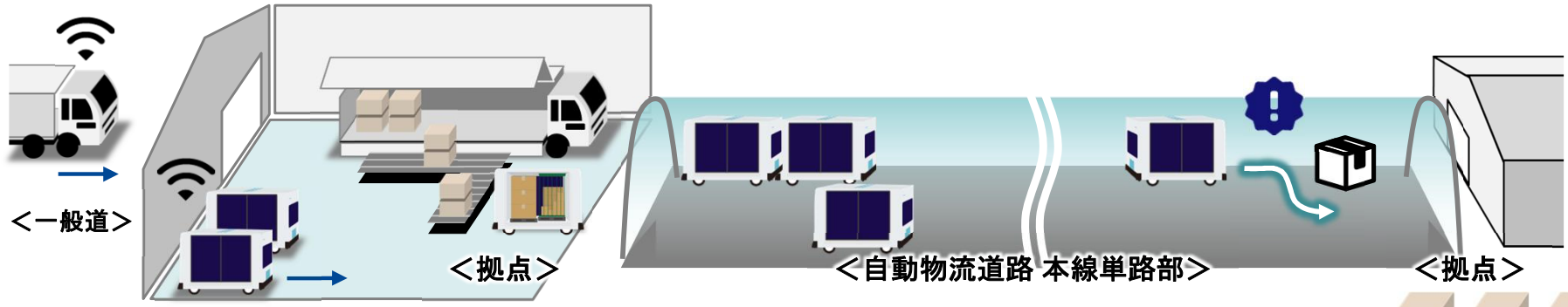
（実証実験全般について）
道路局企画課道路経済調査室　企画専門官 藤岡、係長 井手野
代表：03-5253-8111（内線 37-622、37-623）、直通：03-5253-8487

（国土技術政策総合研究所について）
国土技術政策総合研究所道路交通研究部　道路情報高度化研究官 関谷、主任研究官 田中
代表：029-864-2211（内線 3614、3623）、直通：029-879-5019、864-7219

令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験

国土交通省

○目的：「令和８年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」では、昨年度と同様に既存の技術及び既存施設を活用しつつ、自動、無人で荷物を運ぶという自動物流道路のコンセプトについて、複数台の搬送機器を用いての走行性能及び自動運転設備等の簡素化可能性を検証し、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行う。
○公募期間：7月22日（水）～8月21日（金）
○実験場所：国土技術政策総合研究所の試験走路又は成田国際空港施設内（申請者より提案のあった場所での実施も可）
○実験期間：令和８年10月～12月を予定

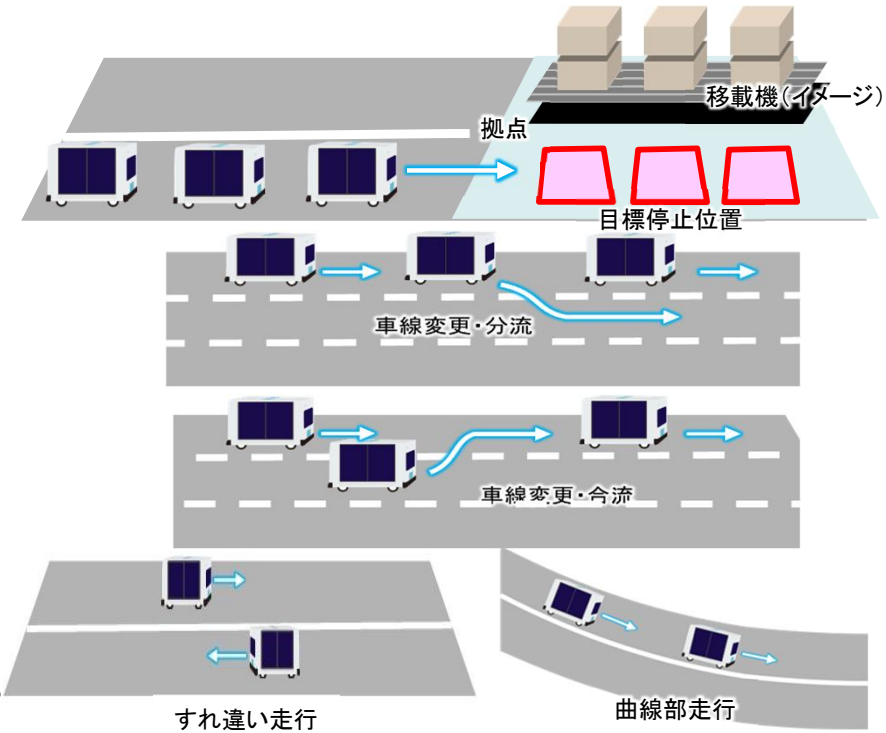


【テーマ1】拠点における荷役＜拠点＞

・机上検討、シミュレーションにより、車両、搬送機器の出入量に応じた複数荷役機器等による処理能力（時間）を検証し、拠点必要面積等を検証する。

【テーマ2】複数台の搬送機器の自動走行＜本線・拠点＞

（1）現行の搬送機器の走行性能の検証
・複数の搬送機器（3台以上）による自動走行（曲線部走行等）を行い、必要な幅員等の検証を行う。また、車線変更、分流、合流、すれ違い等の実証により、バッファリングレーンの実現可能性を検証する。その際、積載貨物への影響、異常検知、危機回避時の走行性能を確認する。
（2）自動運転設備等の簡素化の検証
・ 専用空間を念頭とした自動運転設備等の簡素化可能性の検証を行うとともに、インフラ協調の必要性を検証する。
（3）その他
・机上検討にて、路側インフラ、搬送機器、拠点、車両間のシステム連携を検証する。
・実験中の電力消費量、通信環境、運行管理手法等のデータ取得する。



実証実験スケジュール

国土交通省

※実験実施日のみ標記（準備日・撤去日は除く）
※代表企業名のみ記載
※赤字は国総研、緑字は成田国際空港施設、青字は自社施設で実験を実施予定

採択事業者一覧

参加グループ	実証テーマ
株式会社ロジスネクスト	テーマ１
株式会社豊田自動織機	テーマ１
清水建設株式会社、株式会社 IHI、野村不動産株式会社	テーマ１、テーマ２（１）（２）（３）
大成建設株式会社、株式会社ティアフォー、大成ロテック株式会社	テーマ２（１）（２）（３）
千葉県、成田国際空港株式会社、株式会社大林組、Cuebus 株式会社、株式会社 NTT データ	テーマ２（１）（２）（３）
鹿島建設株式会社、三菱電機株式会社、西濃運輸株式会社、ダイナミックマッププラットフォーム株式会社	テーマ２（１）（２）（３）
株式会社フォーラムエイト	テーマ２（シミュレーションによる対面走行、高速度走行での圧力波等影響評価に限る）